

問1 平安時代に発生した藤原純友の乱が、その後の日本の歴史においてどのような意義を持ったか、その背景を含めて説明したものとして最も適切なものはどれか。（2023年 愛媛公立入試 類似）

1. 東北地方の蝦夷を服従させ、朝廷の支配地域を北へ大きく広げる契機となった。
2. 朝廷が自らの軍力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。
3. 源氏と平氏が対立するきっかけとなり、武家政権である鎌倉幕府が成立する直接の要因となった。
4. 海賊の取り締まりを強化したことで、日宋貿易における海上交通の安全が確保された。

問2 794年に現在の京都府京都市に遷都が行われた際の説明として、最も適切なものはどれですか。（2016年 北海道公立入試 類似）

1. 桓武天皇が、律令政治を立て直すために平安京へ遷都した。
2. 聖武天皇が、仏教の力で国を守るために平城京へ遷都した。
3. 桓武天皇が、平城京の次にわずかな期間だけ長岡京を都とした。
4. 源頼朝が、武家政治を始めるために鎌倉に拠点を置いた。

問3 平安時代初期、遣唐使によって唐から新しい仏教がもたらされました。この時期の宗教動向について記した資料において、空海が「高野山」という山を拠点に開いた宗派と、その総本山となった寺院の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 高知公立入試 類似）

1. 真言宗 — 金剛峯寺
2. 真言宗 — 延暦寺
3. 天台宗 — 金剛峯寺
4. 天台宗 — 延暦寺

問4 平安時代において、それまでの大陸との交流方針が変化し、894年に遣唐使の派遣が停止された主な理由として正しい説明を選びなさい。（2016年 大分県公立入試 類似）

1. 派遣先である唐の国力が衰退し混乱していたことに加え、日本国内で独自の生活や感情に合わせた国風文化が高まっていたため。
2. 稲作の技術が日本国内で完全に自給自足できるレベルに達したため、大陸から新しい技術を導入する必要がなくなったため。
3. イスラム教の勢力が拡大したことで東アジアへの航路が遮断され、日本から唐へ渡ることが物理的に不可能になったため。
4. 平安京の建設に莫大な費用がかかったため、海外への使節派遣を中止して資本主義的な経済改革を優先させたため。

問5 平清盛の家系について記された系譜資料には、清盛の父である忠盛から、清盛、そしてその子の重盛や宗盛へと続く武家としての流れが示されています。これに加え、清盛が朝廷内での地位を確立するために行った婚姻政策についても読み取ることができます。清盛が自身の娘を天皇の后とした政治的な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 京都公立入試 類似）

1. 天皇の母方の祖父という立場になり、政治の実権を掌握するため
2. 武士の身分のまま、天皇に代わって「院政」を行う権利を得るため
3. 宋（中国）との貿易を独占するための許可を、天皇から直接得るため
4. 地方の武士団との血縁関係を強め、全国的な軍事ネットワークを築くため

問6 平安時代中期、藤原道長・頼通の親子が約50年間にわたって実権を握った「摂関政治」の仕組みについて説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として勢力をふるった。
2. 天皇が位を退いて上皇となった後、院庁という役所を開いて、天皇に代わって直接政治を行う体制を整えた。
3. 地方の武士団を組織して軍事力を背景に朝廷を圧倒し、六波羅探題などの機関を置いて政治の主導権を握った。
4. 唐の制度にならって律令を整備し、公地公民の原則に基づき、班田収授法によって全国の土地と人民を直接支配した。

問7 平安時代中期、藤原道長は自分の娘である彰子、威子、嬉子らを次々と天皇の后（きさき）にしました。このように、天皇の母方の親族として政治の実権を握る立場を何と呼びますか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 外戚（がいせき）
2. 執権（しっけん）
3. 守護（しゅご）
4. 管領（かんれい）

問8 平安時代、藤原氏が自身の娘を天皇の后（きさき）とし、生まれた子を天皇に立てることで権力を握りました。このとき、天皇がまだ幼い時期に、天皇に代わって政務を行う役職を何と呼びますか。（2024年 長崎公立入試 類似）

1. 摂政
2. 関白
3. 太政大臣
4. 執権

問9 平安時代末期の平治の乱で勝利し、武士として初めて朝廷の最高官職である太政大臣に就任して政治の実権を握った人物を選びなさい。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 平清盛
2. 源頼朝
3. 北条泰時
4. 足利尊氏

答え合わせ・解説

問1	答え 2 朝廷が自らの軍事力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。	藤原純友の乱や平将門の乱といった大規模な反乱に際し、当時の朝廷には自力でこれらを鎮圧するだけの軍事力が不足していました。そのため、地方に根を張っていた他の有力な武士を動員して鎮圧に当たらせる必要がありました。この結果、武士は朝廷にとって不可欠な軍事力として認められるようになり、のちの武家社会の形成につながる大きな背景となりました。
問2	答え 1 桓武天皇が、律令政治を立て直すために平安京へ遷都した。	794年に平安京を築いたのは桓武天皇であり、その目的は乱れた律令政治の立て直しにありました。平城京は710年に現在の奈良市に置かれた都であり、長岡京は平安京の直前の都ですが、794年という年号と合致するのは平安京です。鎌倉は12世紀末に幕府が置かれた場所であり、遷都の背景とは異なります。
問3	答え 1 真言宗 — 金剛峯寺	空海が開いた宗派は真言宗であり、その拠点が高野山の金剛峯寺です。一方、最澄が開いたのは天台宗で、拠点は比叡山の延暦寺です。高野山と比叡山、金剛峯寺と延暦寺の組み合わせを正確に区別することが、この時代の歴史を理解する上で重要です。
問4	答え 1 派遣先である唐の国力が衰退し混乱していたことに加え、日本国内で独自の生活や感情に合わせた国風文化が高まっていたため。	遣唐使の廃止は、菅原道真の建議によるものです。当時の唐は衰退しており、命をかけて渡海するリスクに見合う成果が得られにくくなっていました。また、これまでの中国文化の模倣から脱却し、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が発展し始めたことも大きな背景にあります。イスラム教の成立はそれより前の時代であり、航路封鎖が直接の理由ではありません。
問5	答え 1 天皇の母方の祖父という立場になり、政治の実権を掌握するため	平清盛は武士の出身でありながら、公家社会の頂点に立つために藤原氏と同じ「外戚」の地位を狙いました。娘の徳子を天皇と結婚させ、生まれた子を天皇（安徳天皇）に立てることで、自分は天皇の祖父として後見人となり、朝廷の政治を動かしました。これは武士による支配が始まりつつも、まだ従来の貴族社会の仕組みを利用して権力を拡大しようとした過渡期の特徴です。
問6	答え 1 自分の娘を天皇の後（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として勢力をふるった。	摂関政治は、藤原氏が天皇の「外戚（母方の親戚）」となることで権力を維持した政治形態です。道長などは娘を天皇に嫁がせ、生まれた皇子を天皇に即位させることで、その幼少期に摂政として、成人後には関白として実権を握り続けました。選択肢にある上皇が政治を行うのは「院政」、武家による支配は「武家政治」であり、摂関政治の特徴とは異なります。
問7	答え 1 外戚（がいせき）	藤原氏は、自分の娘を天皇の後とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父や叔父（外戚）という立場を確立しました。この立場を利用して、天皇が幼いときは「摂政」、成人してからは「関白」という職に就き、政治の実権を独占しました。これを摂関政治と呼びます。
問8	答え 1 摂政	藤原氏は、天皇が幼少の間は「摂政」として、成人してからは「関白」として政治の実権を握り、これを摂関政治と呼びます。藤原良房が皇族以外で初めて摂政に就任したことで、この政治形態が定着しました。執権は鎌倉時代に北条氏が務めた役職であり、混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 1 平清盛	1159年に起こった平治の乱で源氏を退けた平清盛は、急速に勢力を拡大しました。1167年には武士として初めて太政大臣となり、一族で高官を独占するなど、平氏の全盛期を築きました。なお、源頼朝は鎌倉幕府を開いた人物、北条泰時は執権として御成敗式目を定めた人物、足利尊氏は室町幕府を開いた人物です。